

第 4 回栗山川流域懇談会 議事要旨

平成 17 年 12 月 22 日（木）

場所：横芝町文化会館集会室

1. 開 会

2. 挨拶

海匝地域整備センター 雄川所長

3. 委員の委嘱

4. 座長挨拶

高橋 元千葉工業大学教授

5. 議事

<議事(1) 「栗山川流域懇談会の規約変更と懇談会の公開」>

○ 事務局

- ・ 栗山川流域懇談会の規約変更として改正案を提示する。
改正点は以下のとおりである。
 - 1) 第 2 条（目的）において、「計画の策定」のみならず、「変更または当該計画に基づく河川事業を適正に評価」することも追加。
 - 2) 第 3 条（懇談会及び座長の職務）において、「委員の任期は 2 年とし、再任は妨げない」を追加。
 - 3) 第 4 条（連絡調整会）において、連絡調整会は懇談会の円滑な運営を図るため、今後に残す。2 項目以降の連絡調整会の事務（地域意見の集約）については、懇談会の公開を受けて、削除する。
- ・ 栗山川流域懇談会は、千葉県内の他の懇談会と同様、今年度より公開とする。懇談会内での一般傍聴者からの意見発言についてはルール化し、配付する「意見用紙」にて、意見を集約する。

○ 瓜生委員

- ・ 委員にも「意見用紙」が配付されているようであるが、この位置づけは？

○ 事務局

- ・ 委員の方にも、何かご意見があれば「意見用紙」に記入して提出していただきたい。

<議事(2) 「栗山川住宅市街地盤整備事業の事業再評価」>

>>事務局より 資料－２の説明

○ 平山委員

- ・ 飯土井橋までの改修計画における工期予定はどのようなものか？
- ・ 高谷川における改修計画はあるのか？

○ 事務局

- ・ 飯土井橋までの改修は、国の補助事業として指定されている区間であり、現在国の認可上は平成 25 年までが認可の工期となっている。
- ・ 高谷川は、整備計画区間にはなっていないが、本川を改修することで浸水時間が短くなることが予想され、被害額の減少も可能と思っている。

○ 平山委員

- ・ 高谷川の計画がないということで非常にがっかりしている。芝山町は成田空港の排水関係もあり、相当量の水が高谷川に流れ込むことということもあるので、芝山町としては早い高谷川の改修を望んでいる。

○ 伊藤（齊）委員

- ・ 横芝町も 5 年に 1 度は冠水するような状況であり、これは、成田空港やゴルフ場により、一気に増水してくるが原因と思われる。このような状況の中、計画がないということであるが、私が知る限りでは、測量調査は実施したのではないか？

○ 事務局

- ・ 流域の現況調査を実施しているが、今後、流出量調査を実施し、検討していきたい。高谷川については、今後 20 年かけて本川の整備計画を実施していく間に、現況調査等を実施し、検討していきたい。

○ 瓜生委員

- ・ 多古橋川の多古橋から栗山川合流点までの改修工事工程を説明していただきたい。

○ 事務局

- ・ 当該区間については、いつ実施していくかというのは現在のところわからない。ただし、河川というものは下流より改修していくことが基本なので、下流より整備を進めていく。今回の住宅市街地盤整備事業区間も、現在狭窄部となっており、この改修が終了すれ

ば上流への影響も少なくなるため、この状況を見ながら順次進めていく予定である。

○ 高橋座長

- ・ 本懇談会の意見として、栗山川住宅市街地基盤整備事業については、継続することが妥当であると判断するという懇談会の結論にしたいと思う。

○ 事務局

- ・ 栗山川住宅市街地基盤整備事業については、本懇談会で継続が妥当であると意見を頂いたので、最終的に事業者である千葉県が判断し、国に事業継続について報告させていただく。

6. 報告事項

＜報告事項 「サケ放流事業」＞

○ 石井委員（栗山川漁業協同組合）

- ・ サケ放流については、昭和 51 年度より、県の方針によりサケの南限に挑戦ということで放流が始まり、昭和 53 年度より捕獲事業が開始された。
- ・ 現在までで一番帰ってきた時期が 2000 匹近く帰ってきていた・
- ・ 現在は、放流尾数は少なく、本年度は 10 万尾の孵化事業に成功し、先日 6 万尾を実験的に放流した。
- ・ 平成 10 年度で県事業としては終了したが、その後、光町と横芝町で予算化していただき、放流事業を実施している。平成 12 年度から、山武、海匝、香取郡などの近隣小・中・高等学校の学生に孵化から放流までを体験していただくサケの里親事業を実施している。平成 16 年度には 42 校からの申し込みがあった。
- ・ 本年度は、魚道の完成により、魚道で捕獲を行っているが、バーチカルスロット式とアイスハーバー式という二種類の魚道により、多くのサケが上流に遡上している。現在、芝山町、多古町、山田町、栗源町までサケが遡上していることが確認されている。
- ・ 今後は、光町と横芝町のみならず、栗山川上流の関係者にもサケ放流事業に協力して頂き、事業を通して栗山川の環境とこれを活かした地域活性化を図っていただけるよう組合としては希望している。

＜報告事項(1) 「ツツイトモの調査状況」＞

- ・ 平成 13 年 5 月に国の絶滅危惧種 I A 類に該当するツツイトモが栗山川で発見された。絶滅危惧種 I A 類は、絶滅の種ニホンオオカミ、野生絶滅トキの次にランクされ、ツツイトモは大変貴重な植物と言える。
- ・ ツツイトモが発見された場所は、国道 126 号の新栗山橋の上流右岸側で、河川堤防拡幅用地の掘削後の水たまりに生育していた。
- ・ 海匝地域整備センターでは、平成 14 年度の「第 10 回栗山川川づくり懇談会」でツツイトモに関する報告を行い、その結果、保全する方向性で河川改修に着手するまで学識経験者に意見を聴きながら、基礎調査の実施や移植の可能性を探ることとなった。
- ・ これまで実施してきた調査として、平成 14 年、15 年に移植を試み、栗山川への別の場所への移植は失敗したが、酒田池運動公園内の湿地植物園への移植は、移植後毎年育成が確認されている。
- ・ 平成 15 年度以降は、ツツイトモを見つけることができていない。この要因としては、以下の 3 つが挙げられる。
 - ①ヨシやガマなど他の植物による影響で日当たりが悪くなった。
 - ②アメリカザリガニによる被食
 - ③種子が全体的に重いため、泥の中に沈んでしまい生育地では発芽しにくい。

- ・ 今後、平成 15 年度以降ツツイトモが栗山川では確認されていないため、平成 18 年度以降に河道掘削工事を予定している。移植が成功している坂田池の植物園では、より確実に保全・増殖していくために、発芽条件の整理を千葉大学と協力し進めていく。坂田池植物園での増殖が今後うまくいけば、将来、栗山川の自然観察園に移植するなど、他の植物とともに地元の方々に観察できるようにしていきたい。

＜報告事項(2) 「洪水時の雨量・水位の情報提供」＞

- ・ 平成 17 年 7 月に水防法が改正され、洪水時の水位を積極的に地域住民に公開しなければならないこととなった。
- ・ 栗山川は平成 18 年度に水位情報周知河川に指定予定であり、この場合に、洪水時の避難の目安となる特別警戒水位を定めることとなる。また、水位情報周知河川に指定した場合、浸水想定区域図を作成することとなるが、浸水想定区域に指定された関連市町村は洪水ハザードマップを作成、配付することが義務づけられる。
- ・ 栗山川では、雨量計が 4 箇所、水位計が 2 箇所ついており、これらの情報を公開し、地域の防災力を高めていくことを目指していく。
- ・ 千葉県では、今年の 9 月 1 日からインターネットのホームページで県内約 200 箇所の雨量・水位データの公開を始めている。今までは 1 時間に 1 回の観測結果の公開であったが、今は 10 分ごとの観測値となっている。

7. 閉会